

掲載日：2018年10月19日

2017年12月21日「産業界と若者の意見交換会」を開催しました

社会連携・企画クラスター世話人

小川雄一（東京大学）

実用化戦略クラスター世話人

岡野邦彦（慶應大学）

産業界と若者の意見交換会 報告（広報サブクラスター/核融合炉実用化若手検討会） 2018年（平成30年）1月15日



大学生が注目する産業界の核融合 関連技術と他分野への波及効果

産業界と若者の意見交換会
核融合分野に携わる産業界への
インタビュー集計結果発表

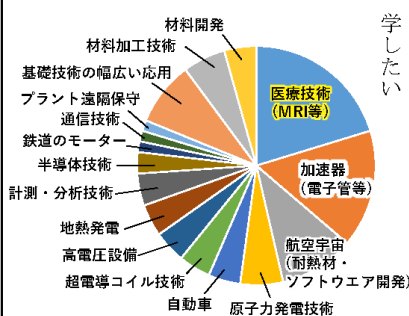
発行所
核融合エネルギー
フォーラム
広報サブクラスター
/ 核融合炉実用化
若手検討会

2018年
1月15日
（月曜日）

核融合エネルギー フォーラム

(<http://www.fusion.qst.go.jp/fusion-energy-forum/index.html>)

三十二名の学生により核融合関連企業のインタビューを実施。核融合技術の他分野への波及効果の現状とは
二〇一七年十二月二十一日に、イイノホールにて核融合エネルギーフォーラム主催により「イーター・ビー」成果報告会二〇一七「人類の明日をのぞむ核融合エネルギー」が開催された。それにあわせ、フォーラム内の委員会組織である「広報サブクラスター」と核融合炉実用化若手検討会が合同で「産業界と若者の意見交換会」を実施した。大学院生二十五名、学部生七名の合計三十二名の学生が参加し、成果報告会に併せて実施された核融合技術関連企業によるパネル展示において、企業と核融合開発の関係に関する複数の項目についてアンケートインタビューを行った。アンケートの内容は、企業が核融合開発に取り組む上で開発した最先端技術や、その技術の社会へ



企業の核融合関連技術の波及分野
(学生のインタビュー結果を集約したもの)

の波及例などについてである。また、核融合分野のやりがいや、どういった部下が欲しいかなど、学生にとって企業研究に繋がると思われる項目もある。学生は、一日も早い核融合実現を企業に期待している一方で、核融合関連技術の社会への波及効果にも注目している。左のグラフのように、エネルギー源である核融合炉を目的として開発された技術が、医療や航空宇宙、自動車などの分野にも応用されている。参加した学部四年生は、企業インタビューの中で、「今後は、核融合分野で開発された技術に応用した商品をもっと開発してほしい」と期待を抱いた。更に、企業が核融合関連技術を生かして技術開発を行う現場を見学したい

という希望も湧いたようだ。一方で、企業側からは学生達に、『学生のうちに、論理的な思考や英語力を磨いておいてください』『責任感を持って取り組む姿勢を学生のうちから養っておいてください』と励ましの声がかけられた。今回意見交換会に御協力頂いた以下の会社に御礼申し上げたい。（順不同）（株）日立製作所、（株）三井検査計測、東芝電子管デバイス（株）、（株）化研、（株）アルゴグラフィックス、日本インターグラフ（株）、金属技研（株）、（株）トヤマ、京セラ（株）、東芝エネルギーシステムズ（株）、三菱電機（株）、三菱重工（株）、ゼネラルエレクトロニクス（株）、（株）NITE、新日鉄住金エレクトロニクス（株）、大和合金（株）、レモジャパン（株）、宝栄工業（株）、ジャパンスーパーコンダクタテクノロジー（株）
（文責：東工大 近藤正聡）

